

岩槻城跡(さいたま市)

築城年代:文明10年(1478年)、築城者:成田正等

岩槻城は15世紀中頃に築かれ、埼玉県指定史跡となっている(岩槻城址公園に立つ説明板より)



埼玉県指定史跡 岩槻城跡

岩槻城は室町時代の末(15世紀中頃)に築かれたといわれています。江戸時代には江戸北方の守りの要として重要視され、有力譜代大名の居城となりました。

戦国時代には何回も大改修が行われ、戦国時代の末期には大幅に拡張されました。本丸・二の丸・三の丸などの城の中心部のある主郭部、その周囲を取り囲む沼の北岸に位置する新正寺曲輪(※)、南岸に位置する新曲輪という、3つのブロックから構成されていました。さらに城の西側及び南側の一帯には武家屋敷と町家、寺社地などからなる城下町が形成・配置され、その周囲を巨大な土塁と堀(※)からなる大構が取り囲んでいました。

この岩槻公園のあたりは、そのうちの新曲輪部分にあっており、その大部分が埼玉県史跡に指定されています。新曲輪は戦国時代末の1580年代に、豊臣政権との軍事対決に備え、その頃岩槻城を支配していた小田原北条氏が岩槻城の防衛力を強化するために設けた曲輪と考えられ、新曲輪・鍛冶曲輪という二つの曲輪が主郭部南方の防備を固めていました。

明治維新後、開発が進んで城郭の面影が失われている主郭部とは対照的に新曲輪部分には、曲輪の外周に構築された土塁、発掘調査で堀障子(※)が発見された空堀、外部との出入り口に配置された二つの馬出し(※)など、戦国時代末期の城の遺構が良好な状態で保存されています。

- (※) 曲輪…城郭を構成する区画
- (※) 土塁、堀…土塁は土を土手状に盛り上げた防御施設。堀は地面を細長く掘り窪めた防御施設。多くの場合、堀を掘った土で土塁を造る
- (※) 堀障子…堀の底に設けられた障害物の一種
- (※) 馬出し…城の出入り口外側に設けられた施設で、出入り口の防備を固め、敵の城内への進入を防ぎ、味方の出撃を容易にする

城と城下町を囲むように大構(おおがまえ)が周っている

岩槻城と城下町模式図

江戸時代後期の岩槻城・城下町絵図をもとに、
現在の公共施設などを表示したものです。





岩槻城は室町時代末に築かれた城郭です。築城者は太田道灌おおたどうかんとする説、父の太田道真おおたどうしんとする説、そして後に忍おし（現行田市）城主となる成田氏とする説など様々です。

16世紀の前半には太田氏が城主となっていました。永禄10年（1567）三舟山合戦みふねやま（現千葉県富津市）で太田氏資おおたうじすけが戦死すると小田原城の北条氏が直接支配するところとなりました。しかし、天下統一を目指して関東への進出を図っていた豊臣秀吉と対立。天正18年（1590）5月20日からの豊臣方の総攻撃を受けた岩槻城は2日後の22日に落城しました。同年、豊臣秀吉が北条氏を滅ぼすと徳川家康が江戸に入り、岩槻城も徳川の家臣高力清長こうりききよながが城主となりました。

江戸時代になると岩槻城は江戸北方の守りの要として重要視され、幕府要職の譜代大名の居城となりましたが、明治維新後に廃城となりました。城の建物は各地に移され土地は払い下げられて、およそ400年の永きにわたって続いた岩槻城は終焉の時を迎えました。

岩槻城が築かれた場所は現在の市街地の東側で、元荒川こうはいしつちの後背湿地しんしょうじくるわに半島状に突き出た台地の上に、本丸、二の丸、三の丸などの主要部が、沼地をはさんで北側に新正寺曲輪しんしょうじくるわが、沼地をはさんだ南側に新曲輪しんくるわがありました。主要部の西側は堀によって区切られ、さらにその西側には武家屋敷や城下町おおがまえが広がっていました。また城と城下町を囲むように大構が造られました。

現在では城跡のなかでも南端の新曲輪・鍛冶曲輪跡かじぐるわ（現在の岩槻城址公園）が県史跡に指定されています。どちらの曲輪も戦国時代末に北条氏によって造られた出丸でまるで、土塁・空堀・馬出どるい からほり うまだしなど中世城郭の遺構が良好に残されており、近年の発掘調査では北条氏が得意とした築城術しゅうじほりである障子堀しょうじほりが見つかっています。

岩槻城の「新曲輪」と「鍛冶曲輪」跡のエリアを示す/中央付近に「黒門」、「人形塚」、「裏門」が、南側には二ヶ所の「馬出し」が記載されている



方位は上が北、下が南、右が東、左が西/東側に元荒川が流れる



まず、㊸地点で南方向を見たところ/この左手が岩槻城址公園となっている



左手を見る





あるさと築城の図

岩槻城

岩槻城は室町時代末に築かれた城で、幕府の代りでは北河内藩の城、天の北河内藩と呼ばれ、今でも「現行御所」として保存されている。16世紀の幕府には主御所と称され、17世紀には、1603年（1596年）、二石山合戦（関ヶ原合戦）で、徳川氏と戦った岩槻藩の徳川氏の子孫が築き上げた。

岩槻城は、江戸第一番目、下関藩の藩政を司っていた岩槻藩の藩政、中野下代藩と岩槻藩（1603年）の藩政の中心地であり、藩政の中心地として岩槻藩が築かれた。1603年（1596年）、徳川氏と戦った岩槻藩の徳川氏の子孫が築き上げた。

江戸時代には、岩槻藩は江戸幕府の中心地として築かれた。幕府の藩政は、江戸幕府の中心地として築かれた。幕府の藩政は、江戸幕府の中心地として築かれた。幕府の藩政は、江戸幕府の中心地として築かれた。

幕府の藩政は、江戸幕府の中心地として築かれた。幕府の藩政は、江戸幕府の中心地として築かれた。幕府の藩政は、江戸幕府の中心地として築かれた。幕府の藩政は、江戸幕府の中心地として築かれた。

幕府の藩政は、江戸幕府の中心地として築かれた。幕府の藩政は、江戸幕府の中心地として築かれた。幕府の藩政は、江戸幕府の中心地として築かれた。幕府の藩政は、江戸幕府の中心地として築かれた。

岩槻市

南方向への道路/中央から右手は「新曲輪」のエリア/右手の高台は新曲輪の櫓台らしい/「鍛冶曲輪」は左手のエリア



これはその道路を南方向に少し進んだところに建つ「黒門」(岩槻城城門)



南側から見たところ



岩槻市指定文化財 岩槻城城門

指定年月日 昭和三十三年二月二十一日

指定の種別 有形文化財（建造物）

所有（管理）者 岩槻市

この門は岩槻城の城門と伝えられる門である。岩槻城内での位置は明らかではないが、木材部分が黒く塗られていることから、「黒門」の名で親しまれている。

門扉の両側に小部屋を付属させた長屋門形式の門で、桁行（幅）約十三メートル、梁間（奥行）約三・七メートルである。屋根は寄棟造で瓦葺き。

廃藩置県に伴う岩槻城廃止により城内より撤去されたが、昭和四十五年（1970）城跡のこの地に移築された。この間、浦和の埼玉県庁や県知事公舎の正門、岩槻市役所の通用門などとして、移転・利用された。

修理・改修の跡が著しいが、柱や組材、飾り金具などに、重厚な城郭建築の面影を伝えている。岩槻城関係の数少ない現存遺構として貴重なものである。



北東側から見たところ



これはその少し南側に建つ「裏門」(岩槻城城門)



岩槻市指定文化財

岩槻城裏門

指定年月日 昭和五十六年五月十二日

指定の種別 有形文化財（建造物）

所有（管理）者 岩槻市

この門は岩槻城の城門である。岩槻城の裏門と伝えられるが、城内での位置は明らかではない。

現状では、門扉を付けた本柱と後方の控柱で屋根を支える薬医門形式となっている。間口約三メートル、奥行約二メートルであり、向かって左側袖扉に門扉左に潜戸を付属している。屋根は切妻造で瓦葺き。

左右の本柱のホゾに記された墨書銘により、江戸時代後期の明和七年（一七七〇）に当時の岩槻城主大岡氏の家臣武藤弥太夫らを奉行として修造され、文政六年（一八二三）に板谷官治らを奉行として修理されたことが知られる。数少ない岩槻城関係の現存遺構の中でも、建築年代の明確な遺構として貴重なものである。

廃藩置県に伴う岩槻城廃止後、民間に払い下げられたが、明治四十二年（一九〇九）以降、この門を大切に保存して来られた市内飯塚の有山氏から岩槻市に寄贈され、昭和五十五年（一九八〇）岩槻城跡のこの地に移築された。なお、門扉右の袖扉はこの時付け加えられたものである。



薬医門形式に袖塀がついたもの



これは「黒門」の辺りから南方向を見たところで、右手は野球場になっている/この辺りと右手の野球場の一带が「新曲輪」跡である



右手のグラウンドを見たところ



さて、野球場南東端のダッグアウト辺りの◎地点へ進む



◎地点から西側を見たところ/右手はダッグアウト/正面の小道を進んでみる



左手は土塁の跡でその更に左手に堀跡が並行している/右手はグラウンドだが、この高まりも土塁の名残りのようだ



㊦の方向を見たところ/グラウンドに沿って土塁が回り込んでいる



振り返って◎の方向を見たところ/左手がグラウンド



これは◎地点から南東方向へ「新曲輪」跡のエリアを見たところ



さて、これは黒門近くにあった「人形塚」/岩槻らしいモニュメントである



人形塚について

昭和四十六年（一九七一年）当時の岩槻人形連合協会は十月十五日を「人形の日」と決め、埼玉百年を記念してこの岩槻城の一角に人形塚と人形の碑を建立いたしました。人形塚は、郷土の日本画家、関根将雄画伯のデザインによるもので、製作に当たっては、地元の若き人形職人等の熱き協力がありました。

男雛、女雛が侘むつましく寄りそった姿は「人」を象し世界の平和と郷土岩槻の限りなき発展を願っております。

当地の人形作りの起源は、江戸時代のはじめ

日光東照宮造営の頃（一六三〇年）とされています。

その後幾どせ、人形作りに心血を注ぎ、いそしんだ先輩父祖の霊を慰め、また多くの人形師が心をこめて作り上げかつ人々に愛された人形達の冥福を祈り、この人形塚は作られました。

平成四年三月吉日

埼玉県観光連盟

岩槻市観光協会

岩槻人形協同組合



次は①地点に進んでみる



ここは「鍛冶曲輪」の北側の虎口跡らしい



そこを進むと岩槻城址石碑が立っており、その向こうには沼地が広がっていた



石碑から南側を見たところ/正面には新曲輪と鍛冶曲輪との間の堀跡が南方向に延びており、やや右手に説明板が見える



これがその堀跡で前方右手に説明板が立っている



ここが㊸地点



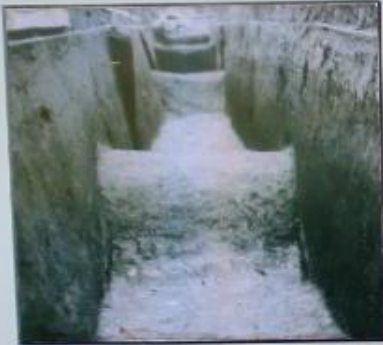
堀底には後北条氏特有の築城技術である「堀障子」があったという

堀障子

現在地は、新曲輪と鍛冶曲輪との間の空堀である。発掘調査の結果、堀底まで三m程埋まっており、堀底には堀障子のあることが確認された。

堀障子は畝ともいい、城の堀に設けられた障害物のことである。堀に入った敵の移動をさまたげたり、飛び道具の命中率を上げることなどを目的として築かれたと考えられ、小田原の後北条氏の城である小田原城（神奈川県）、山中城（静岡県）や埼玉県内の伊奈屋敷跡（伊奈町）などからも見つかっており、後北条氏特有の築城技術とみられている。

岩槻城跡では三基の堀障子が見つかっており、底からの高さ約九〇cm、幅が上で九〇cm、下で一五〇cmあり、その間隔は約九mあった。この遺構の発見で、堀が戦国時代の終わり頃に後北条氏によって造られたことなど様々なことが判明した。



発掘された堀障子



堀障子模式図

岩槻城跡の堀障子の断面図（上）と発掘現場の様子（下）

南側から北方向へ見たところ



同じく◎地点から遠景に見たところ



堀跡は◎地点でクランクして西方向に延びている/正面の高くなったところが道路/堀跡はこのすぐ先で左手にもクランクしている



その左手にクランクした堀跡を南方向に見たところ/左手が鍛冶曲輪、右手は新曲輪のエリア



これはその先に行って振り返って北方向を見たところ



そしてこれはそこから更にクランクして東方向へ延びる堀跡を見たところ



さて、次は①地点へ進む



①地点で北方向を見たところ/この道路から左手が新曲輪エリアで、右手は鍛冶曲輪エリア/正面右手に標柱が立っている



東方向を見たところ/左手のフェンス・手摺の下は先ほどの堀跡である



標柱には「新曲輪」とある



先程通ってきた堀跡が見える/東方向を見下ろしたところ



北方向を見下ろしたところ



㊦地点で道路の西側の堀跡を見る



その堀跡を見下ろす/西方向へ延びている



これは㊦地点で西方向に見たところで土塁と堀跡となっているが、ここが新曲輪の「馬出し」跡らしい



さて、こちらは㊸地点の鍛冶曲輪の「馬出し」とされる辺りを見たところ



こんな感じ



次は鍛冶曲輪の㊦地点に進む



鍛冶曲輪が見えてくる/東方向に見たところ



曲輪内で北方向を見たところ



そこから左手を見ると石碑が立っている





こちらの石碑には「白鶴城址碑」とある



岩槻城はこの他、浮城・竹束城などとも呼ばれるらしい/これは岩槻城の由来を記した石碑



次は鍛冶曲輪を①地点に進む



この鍛冶曲輪内の沼地には橋が架かっている



そこから東方向の①地点を見たところ/橋があり、その向こうは道路



その道路側から振り返って見る/ここは鍛冶曲輪東側の虎口らしい/この橋は道漕橋というらしい



これは手前の橋の右手を見たところ/ここも堀跡らしい/両サイドが比高二重土塁と呼ばれる二重に盛られた土塁となっている



同じく左手を見たところ/比高二重土塁は後北条氏系城郭の特徴の一つという



さて、これは㊟地点で鍛冶曲輪を見たところ/北西方向に見る



この手前の左手を見ると、このように堀跡が残っている



これは㊤地点のすぐ東寄りで城の東側を流れる「元荒川」を見たところ/天然の要害(外堀)としての役目を果たしていた



先程の沼地のところに戻り、正面に鍛冶曲輪のエリアを見る/南西方向を見る



この橋は「ハツ橋」と記されている



ジグザクに八つに折れている/北方向を見たところ



次は㊀地点へ進む



こも堀跡が残っている/左手が鍛冶曲輪沼地、右手が新曲輪エリア/南方向に見たところ



振り返って北方向を見たところ



ここは㊸地点で北東方向を見たところ



ここが公園になっている/東方向を見る



南方向を見る/前方の台地が新曲輪エリア



大手門跡

この辺りが大手門跡のエリアらしい



正面のフェンスに看板が取り付けられている



看板には「大手門跡/岩槻八景(鷓首夕照)」とある



少し退いて見たところ



武家屋敷跡/旧秋葉邸裏小路公園

岩槻城大手門外一帯に配置された武家屋敷跡/岩槻藩士の居住地の道は小路と呼ばれ、ここ裏小路は大手門(右手)につながる



塀に取り付けた看板には「裏小路/昔の武家屋敷」と記されている





旧秋葉邸 裏小路公園

古地図



周辺案内図



岩槻の歴史

岩槻城は室町時代に關八州の北の番として築城されて以来、城下町としての岩槻の歴史が始まります。江戸時代を迎えると、岩槻は江戸近郊の城下町として栄えるようになります。岩槻城大手門外の一帯を中心に武家屋敷、街道沿いには町家が配置されました。また由来の街道は将軍の日光参拜路でもある日光御成道として整備され、城下町はその宿場町としても賑いました。現在地である裏小路公園周辺には、徳斎館や時の鐘など由緒ある史跡が多く、奥へ足を延ばせば、当時の面影を残す岩槻城址公園があります。

裏小路について

岩槻藩士の居住地の道は小路と呼ばれ、町人の住む城下町とは区分されて、両者の境には本戸が設けられていました。ここ裏小路は、大手門につながる小路の一つです。

凡例

通うる	江戸時代の名称	名前のある道
(通うる)	明治時代以降の名称	小路名
●	宿 寺 (交差点名)	大橋(土塁)跡
□	バス停	水戸跡
○	トイレ	みどころ

旧秋葉邸 裏小路公園について

地元自治会では、さいたま市との合併以前から「景観形成勉強会」を立ち上げ、この地域の歴史と景観について勉強し、拠点となる公園の実現に向けた活動を行っていました。この公園は、この地が公園予定地となったことを契機に、城下町・人形文化を取り入れた公園計画を自治会・住民・市が協働して立案し、建設されたものです。

大構(総構・外構)/愛宕神社の土塁跡

正面が愛宕神社/東側から見る



高まりの上部に社殿が建つ



この高まりは岩槻城下町の周囲を囲んでいた土塁(及び堀)で「大構(おおがまえ)」と呼ばれる



愛宕神社

所在地 岩槻市本町三十二・二十五

愛宕神社の祭神は迦具土命であり、境内には松尾神社（祭神 大山咋命・伊弉諾命・伊弉冉命・徳川家康）、稲荷神社（祭神 倉稻魂命）、天神社（祭神 菅原道真）がある。迦具土命は火防、盗難除、安産の神、子育ての神として知られ、近年は、進学・就職の神として信仰を集めている。

神社の創建は明らかではないが、江戸時代初期の「武州岩槻城図」に愛宕神社が記されている。いい伝えによると、長禄元年（一四五七）に太田資清（一説には道灌）が岩槻城を築くにあたり城廓として外堀と土塁（土居）を造った。するとその傍らに小さな祠一社があり、風雨に曝された小板に幽かに迦具土命と言う字が見えた。これは火防の神（愛宕大神）であるので土塁上に移し祠った。その日が現在の七月二十四日であるので、今でも祭礼日として祭典を行っている。

昭和五十九年三月

埼玉
岩槻市

岩槻城大構

指定年月日

昭和四十九年九月二十六日

指定の種類

記念物(史跡)

所有(管理)者

岩槻市本町三丁目二番二五号

愛宕神社

戦国時代の末から江戸時代の岩槻城下町は、その周囲を土塁と堀が囲んでいた。この土塁と堀を大構おおがまえ(外構・惣構・土居)という。城下町側に土塁、その外側に堀が巡り、長さは約八kmに及んだという。

この大構は、天正年間(一五八〇年代頃)、小田原の後北条氏が豊臣政権との緊張が高まる中、岩槻城外の町場を城郭と一体化するため、築いたものとされ、城の防御力の強化を図ったほか、城下の町場の保護にも大きな役割を果たした。

廃城後は、次第にその姿を消し、現在は一部が残っているにすぎず、愛宕神社が鎮座するこの土塁は、大構の姿を今にとどめる貴重な遺構となっている。

文化財を大切に



岩槻城絵図

土塁上に愛宕神社が鎮座



かつての岩槻城大構
(昭和30年代)

岩槻市本町三丁目二番二五号 愛宕神社

右側面から見たところ



さて、社殿まで登ってみる



左斜め後方から社殿を見たところ/左手が本殿、右手は拝殿



そこから左手を見ると、すぐ下には東武野田線の線路が走っている



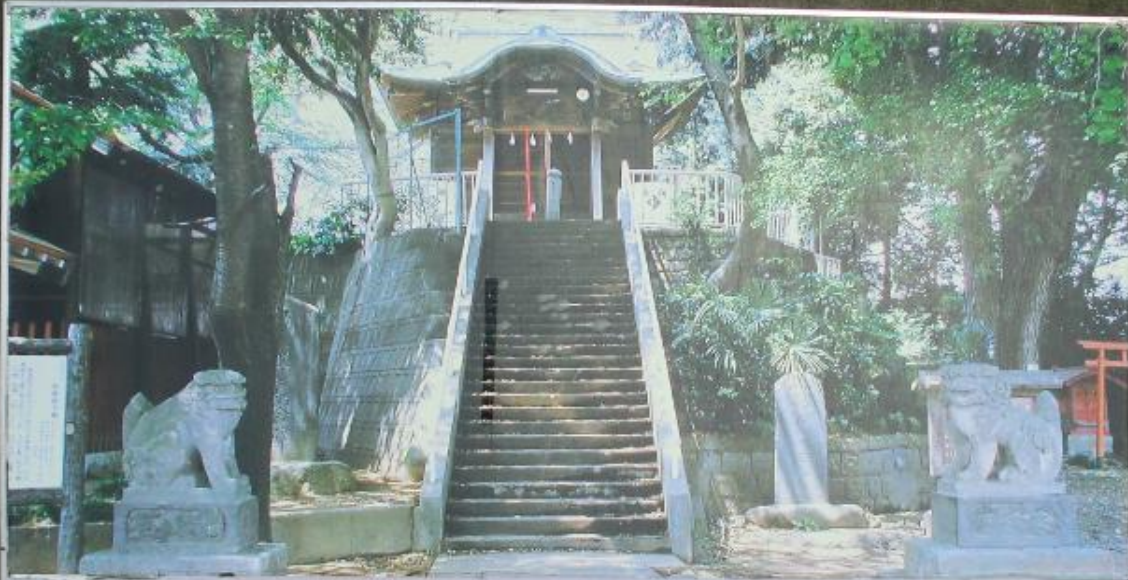
これは神社の右斜め後方から全容を見たところ/北西側から南東方向に見たところ



これは南西側から見たところ



堀に貼ってあった愛宕神社の紹介



愛宕神社

所在地 岩槻市本町三の二十の二十五
愛宕神社の祭神は迦具土命であり、
境内には松尾神社（祭神 大山咋命）
・伊弉冉命（徳川家康）、稲荷神社
（祭神 倉稲魂命）天神社（祭神 菅
原道真）がある。

迦具土命は火防・盗難除・安全の神
・子育の神として知られ近年は進学
・就職の神として信仰を集めている。
神社の創建は明らかではないが、江
戸時代初期の『武州岩槻城図』に、
愛宕神社が記されている。いい伝え
によると、長禄元年（一四五七年）
に太田資清（一説には道灌）が岩槻
城を築くにあたり城郭として外堀と
土塁（土居）を造った。するとその
傍らに小さな祠、一社があり、風雨
に曝された小坂に幽かに迦具土命と
言う字が見えた。これは火防の神（
愛宕大神）であるので土塁上に移し
祀った。その日が現在の七月二十四
日であるので、今でも祭礼日として
祭典を行っている。

昭和五十九年三月 埼玉県

岩槻市

岩槻城大構

岩槻市指定文化財 種別 記念物（史跡）

所有管理者 愛宕神社

【奉納看板】

奇贈アートファーム

時の鐘

正面に江戸時代に城内や城下の人々に時を知らせた「時の鐘」が見える





この鐘楼の下の高まりは土塁の跡ともいう



岩槻市指定文化財

とき 時の鐘 かね

指定年月日 昭和三十三年二月二十一日
指定の種類 有形文化財（工芸品）
所有者 岩槻市

岩槻城下の時の鐘は、寛文十一年（一六七二）、城主阿部正春の命令で鑄造されました。渋江口に設置された鐘の音は、城内や城下の人々に時を知らせていました。五〇年後の享保五年（七二〇）、鐘にひびが入ったため、時の城主永井直信（陳）が改鑄したものが現在の鐘です。鐘は一日三回撞かれたとも言われていますが、江戸時代後期には、一日十二回撞かれていたようです（『新編武蔵国風土記稿』他）。

鐘楼は、嘉永六年（一八五三）に岩槻藩により改建されており（棟札銘）、方十三・二m、高さ二・二mの塚の上に建っています。



岩槻八景「城口晚鐘より」 (岩槻市教育委員会蔵)



文化財を大切に
岩槻市教育委員会



文化財に関する問合せ先 さいたま市教育委員会文化財保護課

参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/065iwatsuki/iwatsuki.html>

<http://homepage3.nifty.com/azusa/saitama/iwatukijou.htm>

<http://www.asahi-net.or.jp/~ju8t-hnm/Shiro/Kantou/Saitama/Iwatsuki/index.htm>

<http://www.geocities.jp/shanehashi/Travel/Japan/Oshiromeguri/IwatsukiJyo.html>

<http://www7.ocn.ne.jp/~htobe/iwatsuki.html>

<http://4travel.jp/travelogue/10732743>

<http://hva34.sakura.ne.jp/adatisakitama/iwatukizyou/iwatukizyou.html>

<http://www.geocities.jp/boatfisherman832/page010.html>

http://www5d.biglobe.ne.jp/~hatabo/meijyou/12_Saitama/iwatsuki/index.html

